

しが国際協力親善大使レポート

たにだ なつみ
谷田 菜摘さん

隊次：2015年度2次隊

職種：野菜栽培

派遣国：フィリピン

プロフィール

大津市(地元は瀬田です)。東京農業大学国際食料情報学部国際農業開発学科卒業(2014年)、大学卒業後に沖縄県宮古島で半年間の農業研修を受け、その後青年海外協力隊に野菜栽培で受験・合格。4月から3ヶ月間の技術補完研修、70日間の語学訓練を受け10月5日にフィリピンに派遣されました。

地域の気候や文化の紹介

任地であるアンティケ州サンホセ・デ・ブエナビスタ町はパナイ島の南西に位置する町です。熱帯性気候である為1年中蒸し暑い日が続いています。キリスト教国家なので食事の前にお祈りをし、毎週日曜日にはミサに参加する人は多いです。フィリピンではberの付く月、つまりSeptember(9月)からクリスマスムードになります。クリスマスが過ぎた現在、近くの広場には未だクリスマスツリーがライトアップされています。

活動や生活について

町役場の農業事務所に配属されFarmVilleというデモファームで有機農業の技術を提供することと、地域の農家さんに有機農業の啓蒙活動が私の主な活動です。FarmVilleはよく農家さん向けにプレゼンテーションを行うことが多く、私も日本の農業についてプレゼンテーションを行うことが決定しました。まだ任地に配属されて1ヶ月しか経っていないので目立った活動は出来ていません。今は任地の農業を知る勉強期間だと考えていますが、職場の人や農家さんも日本の農業を知りたいと思っている人は多いです。私が日本で撮った写真の中で1番驚かれるのが大根の写真です。フィリピンの大根はとても小さく人参と同じサイズなので日本の大根の写真を見せるとbahol(大きい)と言って驚きます。日本の農業に興味を持ってくれるととても嬉しく思います。しかしフィリピンの人たちは野菜を食べる習慣が根付いていません。お肉をよく食べ、栄養はフルーツで摂取するので日本人ほど野菜を食べません。野菜栽培隊員として派遣されましたが野菜を作っても食べてもらわなければ意味がないので、より多くの人に野菜を食べてもらえるようにすることが私の課題です。配属されて感じるのが言葉と文化の違いです。英語が通じる国なので普段の会話は英語がメインです。英語でのコミュニケーションは大変で、日本語での会話をしたいと

思うことが度々あります。又、フィリピン人はお祝い事が好きで誕生日会やクリスマスパーティーでは外で音楽が流れたりカラオケで歌を歌ったりしてとても騒がしく、日本と違う文化は慣れていない反面驚きと楽しさで満ち溢れています。私の任地は比較的大きな町なので青年海外協力隊の他にアメリカのピースコー・韓国の KOICA・フィリピンの AMA ボランティアがいます。特に AMA ボランティアとは共にイベントに参加したり年越しを過ごしたりしました。職場の同僚や上司は年が離れているので、同世代の人たちと交流するのはとても楽しいです。活動は長い道のりですがここで出会った人たちとの繋がりを大切にしていきたいと思っています。季節の変わり目を感じる事が出来ず日本の寒さに恋い焦がれながら楽しくにぎやかな生活を送っています。



垂れ幕で迎え入れてもらいました



町の風景です



移植の作業中です



AMA ボランティアとイベントに参加した時の写真